

始良市農地利用最適化推進委員候補者の応募状況（最終公表）

【一般募集】

No.	一般募集（応募者）							応募理由	
	氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	応募地域		農業委員への応募
1	児玉 國男	男	81	無職	S41～H13大阪市交通局勤務 西田自治会会長（5年間）	農業経験は高校卒業まで手伝いをしてきた。 現在、耕作無し	始良	無	休耕田に関心があり応募した。
2	宮部 芳照	男	81	講師	S41～H18鹿児島大学農学部にて農業生産の教育研究に携わる。H2～H8甘味資源審議会理事、H4～H18日本農作業学会評議員、H5～H9農業生産管理学会評議員、H6～H16NPOネイチャリングプロジェクト理事、H18～現在 鹿児島県農業共済組合連合会損害評価委員、H20～H21始良町有機農業推進委員会委員、H22～H25かごしま有機農業支援センター講師、H22～H28始良市行政改革推進委員会委員、H25～現在 始良市シルバー人材センター友和会会長、H25～現在 始良市環境審議会委員、H28～現在 鹿児島県環境審議会委員	耕作面積：10a（始良市） 作目：野菜 農業従事日数：60日 耕作面積：20a（指宿市） 作目：枇杷、その他 農業従事日数：60日	始良	有	関係者の努力により、遊休農地の減少や担い手への農地集積（集積率17.5% H30）は徐々に進んでいる。その中で日頃、有機農業関係で農地の実態を見る機会も多いが、特に中山間地域の耕作放棄地、鳥獣被害の増大を懸念している。また、近年のコロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻などで肥料原料や燃油の高騰は農業現場を直撃している。このような状況下で、本市においても農業者の確保と育成を図り、農地の高度利用や地産地消の推進などにより農業者の所得安定と持続可能な農業を残す必要がある。 また、小生の農業に対する思いや基本構想は、南日本新聞の「時論」にも掲載されています。（R元. 9/20スマート農業は万能か、R2. 5/25コロナ禍と食糧安保、R3. 5/3農業からCO2ゼロへ/バイオマスの利活用、R4. 4/25気候変動に強い農業を、R4. 10/24食糧自給率向上への道筋）
3	清水 重徳	男	71	農業	蒲生小、中、加治木高校卒業 東京にて広告制作会社にて「ちょっと気になる日本キャンペーン」に従事 昭和56年清水コーチングスタッフ（有）を設立し、東京、千葉、神奈川でテニススクールを運営	耕作面積：田26a（委託）畑4a 作目：玉ねぎ 農業従事日数：週2日程従事 農業所得額等：なし	蒲生	無	鹿児島で約20年、東京で約50年、生まれ育った鹿児島に帰って来て約1.5年。畑違いの仕事をしてきましたが、生まれ故郷に貢献すべく何かできるのではと思ひまして応募しました。